

Jetstream 使用時の大量デブリスによる Filtrap 回収困難に対するベイルアウトの経験

¹森之宮病院、²森之宮病院中田 文¹、福永 匡史²

【はじめに】Jetstream は高度石灰化病変に対して有用なアテレクトミーデバイスであるが、病変性状によっては大量のデブリスが発生し、末梢保護デバイスである Filtrap の回収が困難となることがある。今回、浅大腿動脈（SFA）の石灰化結節病変に対する Jetstream 使用後に、大量デブリスの捕捉により Filtrap の回収困難を来した 2 症例を経験し、シースアップによるベイルアウトが有効であったため報告する。【症例】2 症例とも石灰化結節病変に対し、7Fr シースおよび 8mm Filtrap を用いて末梢保護下に Jetstream（2.4/3.4 mm）による病変切削を施行した。病変治療後、Filtrap 内に大量のデブリスが捕捉され、7Fr シース内への回収が不能となった。1 例では 8Fr シースへ交換することで Filtrap を安全に回収することができた。一方、もう 1 例では 8Fr でも回収困難であり、12Fr DrySheath へ変更し、Filtrap をデブリスごと安全に回収した。いずれの症例もその後 Drug-Coated Balloon による血管形成を施行し、良好な拡張が得られた。手技に伴う末梢塞栓、血管損傷、デバイス破損などの合併症は認めなかった。【結語】Jetstream 使用時には大量デブリスにより Filtrap 回収困難を生じる可能性がある。無理な牽引は血管損傷やデバイス破損のリスクとなるため、シースアップによるベイルアウトは安全かつ有効な回収方法となり得る。本症例は、Jetstream 使用時の回収困難症例に対する実践的な対処法として有用な知見と考えられる。